

第一貨物 大宮支店がオープン 拠点集約し品質向上



3日、本稼働した大宮支店。エリア再編などで輸送品質が向上する

市)、今回の大宮、さらには来年稼働させるもう一つの拠点をスポーツ・アン・ド・スポークの構想を「計画から三年、足掛け五年近うかけ進めてきた」(安達常務)。大宮支店開設はその戦略

第一貨物(本社・山形市、武藤幸規社長)は三日、さいたま市に大宮支店を稼働させた。岩槻と足立の二支店を統合。一時保管機能を備えた延べ床面積三万平方メートルの大型施設は、同社が首都圏を進める特積み拠点構想の中で「東北の玄関口」(安達英雄常務)の位置付けを持つことになる。

所在地はさいたま市岩槻区長宮上谷中七七七ノ一。敷地面積約二万二千六百平方メートル。鉄骨造りの四

階建て、延べ床面積約二万九千七百平方メートル。一階が特積みターミナル、二階は事務所・休憩所、三階は一時保管施設とし、四階部分はSPL(サイドパーティ・ロックスティック)事業の大口顧客の専用施設とした。

施設面積10倍 効率化を図る

旧施設に比べ、敷地は三・六倍、延べ床は十倍になる。積載荷重四トンの荷役用昇降機(守谷輸送

機工業製)五基を設置。国道一六号にほぼ面し、東北道岩槻インターチェンジにも近い。

大宮支店は、岩槻支店(さいたま市)の老朽化と狭あい化に対応。足立トラックターミナル(東京・足立区)内にあった足立支店の統合をはじめ周辺の特積みネットワークの再編も図った。

自社による集配エリアをさいたま市の中央区・桜区に拡大。また八潮、栗橋、板橋、東京の近隣

四支店の集配エリアを見直して、一店所で積み一店所で降ろす「直行便」を増やすことで、効率化とリードタイムの短縮につなげる。稼働するトラックは二ト車十四台、四ト車四十三台、七ト車三台、大型車三台。

首都圏ハブ& スポーク構想

第一貨物は首都圏で、東京支店(東京・江東区)をハブ、厚木・神奈川県愛川町)・入間(埼玉県入間

市)の一環でもある。首都圏をぐるりと囲む国道一六号と平成二十六年度開通予定の圏央道沿線に、大型拠点を開設。首都圏によりき細かいネットワークと、東北・首都圏・中京・関西を結ぶ幹線ネットワークの構築を目指す。

一階部分は、約四分の一を久留米運送(本社・福岡県久留米市、二又茂明社長)が来年四月から使用する。(2面に関連記事)

(矢田 健一郎)